



# 「ユニフォームで、患者さんの反応が変わります」



地域の救急医療を24時間体制で担い、急性期医療から回復期のリハビリまでを網羅する平成記念病院。患者さんの治療や回復を、職種の垣根を超えたチーム医療で支えておられます。今回はNST(栄養サポートチーム)の管理栄養士・森本さんに、チーム医療で大切なことや、ご採用いただいているユニフォームについてお話を伺いました。



## 地域医療を担う中核病院として、チーム医療を強化。

森本さんが関わっておられるNST チームは、どのような取り組みをされているのでしょうか？

NSTはNutrition Support Teamの略で、簡単に言うと、患者さんの栄養状態をサポートするチームです。医師・看護師・薬剤師・検査技師・言語聴覚士・歯科衛生士・社会福祉士・管理栄養士という専門職が協力しながら、入院患者さんの栄養状態の改善に取り組んでいます。外からの治療だけでなく、体そのものの機能をベースアップするイメージです。

院内を拜見していて、スタッフの同士もみなさん和気藪々とされている印象を受けました。

フランクというか、つながりが深いですね。科目や職種が違うスタッフ同士が集まってチームを結成しているの、心の垣根も低く、みんなで協力しながらやっています。

救急からリハビリ、退院まで、チーム医療でトータルにサポートしておられるんですね。

当院は、一般病棟の他に地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟を有しており、転床をスムーズに行うことが出来ます。急性期から回復期まで切れ目のない医療・リハビリテーションが提供できます。また、地域内に同じ法人の老健施設や訪問看護ステーション、訪問リハビリテーション、クリニックなどがありますので、退院された後のサポートも継続して行うことが可能です。法人内の様々な事業所全体で、懇親会や社員旅行、研修を行っているの、お互いの顔がよく見え、コミュニケーションがしっかりと取れており、業務にも活かされています。

病院や施設間での申し送りや連携がきちんと行われていると、患者さんも安心されるのではないのでしょうか。

そうですね。様々な状態の患者さんを法人内の事業所でカバーする事で、患者さんが住み慣れた土地を離れる事なく、地域の中で医療や介護を受けながら、安心して過ごしていただきたいと思っています。

院内のチーム医療はもとより、地域全体の医療の受け皿となって、患者さんを支えておられるのですね。



## やさしい印象のユニフォームで、患者さんもリラックス。

続いてユニフォームについてお聞かせください。ウェアを選ばれたポイントを、教えていただけますか？

まず、衿が付いていること。患者さんに誠意を持ってお話するという意味で、きちんと見える衿付きが良いなと思っていました。また患者さんに圧迫感や威圧感を与えない、やさしいイメージのものを選びました。

スタッフのみなさんの反応はいかがですか？

今までのものより華やかなデザインだったので、最初はみんなびっくりしていましたね(笑)。でも試着してみるとスタッフの顔がパツと明るくなりました、やっぱりいいなと思いました。このウェアはコメディカルスタッフが着用しているのですが、看護師から「いいなあ、こんなのが着たかった!」と言われたこともありますよ。

着心地や働きやすさなどは、いかがでしょうか？

ユニフォームが変わってから、肩こりで悩むことがなくなりました。他のスタッフも、動きやすさが全然違うとよく言っています。実は個人的にも、アシックスのランニングウェアを愛用しています。

プライベートでもアシックスをお召しになっているんですね!では最後に、患者さんからの反応についてお聞かせください。

「かわいくなったね!」と好印象でした。以前のものより親しみやすい雰囲気になったせいか、栄養相談の時も、気軽にお話ししてくれます。かっこいいシャープなデザインもいいなと思いますが、患者さんには明るくやさしいデザインのものが喜ばれるように感じます。

ユニフォームによって、患者さんからの反応も変わってくるんですね。スタッフのみなさんが気に入って着用してくださっているのが伝わり、私たちも大変うれしく思います。